

KISC

公益財団法人 かごしま産業支援センター
Kagoshima Industry Support Center



冬号

2015

今号の表紙



第10回かごしま産業技術賞
大賞(知事賞)
放熱用高信頼性熱ゴム

薩摩総研株式会社

代表取締役 ふるかわ まさし 古川 正司

<企業概要>

所在地 指宿市山川成川4165
設立 平成17年8月
従業員数 18名
TEL 0993-34-2555
FAX 0993-34-2555
URL <http://satsumasoken.co.jp/>
E-mail inquiry@satsumasoken.co.jp

今号の表紙は『第10回かごしま産業技術賞』の「大賞」(知事賞)を受賞された薩摩総研株式会社の代表取締役古川正司さんです。

同社は、平成17年の設立以来、熱伝導性接着剤の開発を進め、現在は熱ゴム®(熱伝導性樹脂)、高熱伝導接着剤の製造、放熱樹脂塗布加工を主に事業展開しています。

◆熱ゴム®(熱伝導性樹脂)の開発の経緯

電子機器の小型化・軽量化に伴い、配線の高密度化、プラスチック化が促進され、その発熱が問題となり、速やかに熱を外部に逃すことが必要となっています。しかし、その熱源は、複雑な形状のものがほとんどで、その熱を効率よく伝えるため、放熱材料に高い柔軟性を付与することが必須だと考えました。そこで、高い柔軟性を維持しつつ、熱伝導性と絶縁性や防水性能を持つ熱ゴム®(熱伝導性樹脂)を開発しました。

◆熱ゴム®(熱伝導性樹脂)の特徴

熱ゴム®はシリコン樹脂に高熱伝導微粉末を混ぜたもので、高い熱伝導性を持つ樹脂です。

大手企業でも同様の製品を製造していますが、従来のものは、熱伝導率の高いものの比較的硬いものでした。高い硬度では電子部品の凸凹に密着できず隙間ができるため、空気による断熱層ができ、素早く熱を伝えることができません。そこで、当社の技術で柔軟性を持たせることで、より密着させ、圧縮することで熱の流れる距離を短くして、熱を素早く逃がすことに成功しました。また厚みを薄くすることも可能となり、お客様のニーズに

合わせて高硬度から超柔軟まで硬度調整が可能で、一番使いやすい形で提供できるようになりました。特に電子機器向けに極めて高い柔軟性、絶縁性、撥水性を持たせることで、ストレスを最小化した最高の信頼性を出すことに努めています。

この特徴を活かし、太陽光発電用のパワーコンディショナーや高輝度LEDの放熱用途などに利用されています。



熱ゴム®実際の装着イメージ

◆今後の取り組み

太陽光発電関係はアメリカ市場を視野にUL規格を取得し、今後の海外(北米)展開も考えています。また、液状の作業性の高い充填剤の開発、より信頼性の高いシロキシサンガスの発生しない熱ゴム®製品の開発により自動車関連の業界への参入も目指したいと思っています。

当社は、「利他」の社是のもと、モノづくりを通じて社会に貢献したいという一貫した思いで事業活動を行ってきました。今後も「開発により新しいモノを創造する会社」として精進を重ね、社会貢献したいと考えています。

CONTENTS

2	今号の表紙
3	私の思い
4	よろず支援拠点相談コーナー
6	中小企業のための専門家派遣活用術
8	特集 がんばる進出企業
10	がんばってます 加治木産業(株)
11	わが社の輝く女性! くるくま草 高倉 圭子さん
12	ベンチャープラザコーナー
15	取引振興コーナー
16	Information

かごしま産業技術賞は最高の信頼性3年ごとの募集で、地域産業の技術の高度化と活性化を目的に、新製品や新技術を開発し、産業振興に寄与した県内企業を表彰しています。

第10回かごしま産業技術賞受賞企業

大賞	放熱用高信頼性熱ゴム(熱伝導性樹脂)	薩摩総研株式会社
奨励賞	eMax-SP(追尾型太陽光発電システム)	株式会社エルム
特別賞	リチウムイオン電池搭載電源装置 ENEXEL	株式会社アイエムティ

私の 思い



中小企業庁
鹿児島県よろず支援拠点

コーディネーター 加藤 剛

昭和36年生まれ。
学習院大学文学部卒。
昭和63年 (株)エディオン入社
平成21年 (株)FLYING 設立
中小企業支援ネットワークアドバイザー
中小機構海外販路開拓支援アドバイザー
平成26年6月より現職

地域活性化は、小規模事業者の活性化こそ

私は、平成26年6月に、鹿児島県よろず支援拠点コーディネーターに就任いたしました。

よろず支援拠点は、国の中小企業・小規模事業者ワンストップ総合支援事業により、中小企業・小規模事業者への経営支援体制の一層の強化のため、平成26年度から新たに、全国47都道府県に各1ヶ所設置されたものです。地域の支援機関等と連携しながら、中小企業・小規模事業者が抱える売上拡大等の様々な経営課題に対して最適な手法を選択して支援を行う拠点です。

鹿児島県では、公益財団法人かごしま産業支援センターに設置されました。

地域を支える小規模事業者

鹿児島県約8万の中小企業、その中でも7万以上を占める小規模事業者が、その活力を最大限に発揮し、成長発展するのみならず、事業を持続し、地域を支え続けることが、地域経済の好循環を生み出すためには必要不可欠です。それが活力ある鹿児島県全体の経済社会の復活にもつながります。

鹿児島県は東西約272km、南北約600kmという全国一の広大なエリアを有し、農業、畜産業、水産業において多くの価値ある地域資源と世界有数の観光資源を持ち、それぞれの分野で点としての強みは持っているものの、鹿児島県全体の面としての強さはまだ実感できません。その点をつなぎ面として強くするためには、地域の小規模事業者の持続化と活性化が必要です。

よろず支援拠点の提供する支援

鹿児島県54,380億円のGDP（総生産）を押し上げ、雇用環境を改善していくためには、小規模事業者の事業が持続し、一者一者が収益向上を積

み上げていく必要があります。そのためよろず支援拠点では、創業や販路拡大等の中小企業者等の様々な悩みに対応しています。

小規模事業者の不足しているリソースは戦略人材です。現在よろず支援拠点での主要な相談テーマである売上拡大、経営改善、創業、事業承継、IT活用等の多くの課題については、よろず支援拠点と専門家派遣により解決策を提案いたします。

また、成果が出るまで継続的に支援を提供していきます。あらゆる地域の小規模事業者にまで支援を届けるため、地域の支援拠点（商工会や金融機関等）と強く連携して、持続的な粘り強い支援を提供していきたいと考えています。

鹿児島県に貢献したい思い

他県から赴任した私から見ると、鹿児島県は、様々な地域資源に恵まれていて、その地域資源を活用した商品の開発意欲は大変積極的です。美味しい食品を開発するために、絶え間の無い努力をされている企業が多くあります。

しかし、一方で消費者を取り巻く環境は大きく変わっています。長年続いたデフレと消費性向の変化、販売チャネルの革新など、販売側の環境は大きく変わってきています。いいものをつくったら必ず売れるという時代ではありません。顧客の成熟化と顧客心理の変化に合わせた売り方が必要です。

私は、マーケットにおいて顧客の買い物の変化にどう対応するかという仕事に多く従事してきました。こうした経験を、よろず支援拠点での支援を通じて鹿児島県の発展に貢献していきたいと考えております。

よろず支援拠点 相談コーナー

成果が出るまでしっかりとサポート！相談は何回でも無料！

よろず支援拠点 支援事例のご紹介

よろず支援拠点の概要

鹿児島県よろず支援拠点では、5人のコーディネーターが中小企業・小規模事業者の皆様からの売上拡大や経営改善など経営上のさまざまな悩みをお聞きし、課題解決に向けた支援を無料で行っております。

また、大隅地域の事業者の利便性の向上を図るため、毎週金曜日には、鹿屋市に「大隅よろず相談窓口」を開設し、相談業務を行っております。

昨年6月の開設から6ヶ月間で県内各地の717事業者から1,504件の相談をお受けしており、売上拡大や資金繰り改善等につながる成果も現れております。成果が出るまで、事業者の立場に立ったきめ細かい実践的な支援を続けてまいります。お気軽にご相談ください。



来店客数アップの支援事例

小売業は、「変化対応業」とよく言われます。消費者の変化に対応していかなければお店は徐々に衰退し、新しいお客さんが来なくなり、古くからのお客さんは何も言わずに徐々に減っていきます。なぜなら、お客さんはいつも新しいお店が好きで、買う楽しさを求めて来店するからです。

売上高は「客数×客単価」で表わされますが、お店を継続していくためには、まずはお客さんにお店に来ていただく必要があります。では、もう一度お店を繁盛させるにはどうしたらよいのでしょうか？

これまでの相談事例の中から、「来店客数アップ」の支援事例を紹介します。

◆事例1◆

衣料品店

～初めてのお客様も入りやすい視認性の高いお店を作る～

お店に新規のお客さんが来なくなったと話をされます。店内を見るとスタッフが動きやすいレイアウトになっています。狭いスペースを少しでも広くしようと、通路等のスペースを広げました。そのため店内はとて広く回遊性も良くなったのですが、お店の入口は窮屈になっています。また、ショーウィンドウも内側から什器等で塞いでしまい、外からはどんなお店なのか判らなくなっています。

固定客はずっと変わらず来てくれるわけではありません。新規のお客さんが増えなければ来店客数は年間1～2割は自然に減っていきます。どんなお店でも優先することは来店してもらうことです。

この事例では、できる限り店のバックヤードやデッドスペースを減らして、入口を拡げ、ショーウィンドウを活かすことにしたところ、初めてのお客さんも「外から見やすい、入りやすいお店」になりました。

◆事例2◆

飲食店

～お店の雰囲気・楽しさを発信する～

お店は情報を発信する場所であるとばかりに、店内のあらゆる壁にいろいろなポスターやチラシを貼っています。外のガラスウィンドウにも店内が見えなくなるくらい情報がいっぱいです。

お店に行くお客さんの動機は、「食事をしたいからその店に行く」から、「そこに行くことが楽しい、快適」に変わってきています。そこが楽しめる空間でなければ、わざわざ行きません。そのため「お店の雰囲気」をどう創出するかが重要になります。

この事例では、色あせたポスターやチラシは、楽しみを求めるお客さんにとってマイナスイメージとなりますので思い切って撤去しました。元々お店が持っている楽しめる空間を演出することで「すっきりとした居心地がよいお店」になりました。

◆事例3◆ **雑貨店** ～お客様に新しい発見をしていただく買物空間を提供する～

商品がすぐにわかるようにと、品目別にきれいに並べています。お客さんはすぐに手にとって選ぶことができます。しかし、なかなか手にとっていただけません。

大手量販店はその商品調達力から、多くの商品をきれいに並べて、圧倒的な量を見せてお客さんを惹きつけます。一方、小さな店は量販店と同じようにきれいに商品を並べようとする、「私の店にはこれだけしかありません」と、わざわざお店の品揃えの少なさを見せているかようになります。

特に女性向けのお店の場合には女性の視点にどう対応させるかが重要です。一般的に女性は売り場において、数多くの商品の中から隠れた一品を探し出す感性にとっても優れています。満足の高い買い物とは、そうした一品を選び出すことであるとも言えます。小さなお店ほど、仕掛けを多くして、いかに狭く感じさせずに、深く感じさせられるかが陳列のポイントとなります。

この事例では、同じ品目に属する商品を同一色でまとめて色別にコーディネートする、別の品目の商品とセットにする、ギフトコーナーをつくるなど商品が店内に散らばるように工夫することで小さなお店ながら「毎回新しい発見があって楽しいお店」になりました。

支援内容（3つのミッション）

よろず支援拠点へ相談にお越しいただいた後は、極力、お店を訪問させていただき、お客さんの視点で改善につながるヒントを提供するよう努めています。お店は立地や環境、取扱商品など様々ですが、小さな改善を積み重ねていくことで、再びお客さんを増やすきっかけとなります。

よろず支援拠点は、お客さんに支持されるお店となるよう以下の支援を行っております。

- ①総合的・先進的アドバイス ⇒ 解決が困難な経営相談に応じるとともに、継続的にフォローを行います。
- ②チーム編成を通じた支援 ⇒ 支援機関・専門家がチームを組んで支援します。
- ③ワンストップサービス ⇒ 経営課題に応じた的確な支援機関等を紹介します。

◇◇お気軽にご相談ください◇◇

新たに就任したサブコーディネーターのご紹介

<サブコーディネーター>

相談される事業者への支援体制を強化するため、12月からデザインを得意分野とする松田サブコーディネーターが就任しております。

松田氏は、印刷物・デザイン制作を行う企業に入社し、平成18年に独立して「Hero's Design」を設立。約20年間デザイン業界に関わり、企業や商工団体、学校等の多岐に渡る業種のポスターや広告ツール等の製作に携わってきました。

よろず支援拠点では、特に売上につながるデザインや広告手法を提案いたします。



松田貴志氏

ご相談の流れ



相談申込み・お問い合わせ先

◇鹿児島県よろず支援拠点

所在地：〒892-0821 鹿児島市名山町9番1号 県産業会館1階
 電話：099-219-3740 F A X：099-223-7117
 E-Mail：yorozu@kric.or.jp

【相談日】月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時15分（祝祭日、年末年始を除く）

◇大隅よろず相談窓口（鹿屋市産業支援センター内に開設）

【相談日】毎週金曜日 午前10時～午後4時（祝祭日、年末年始を除く）

中小企業のための専門家派遣活用術

～経営革新をサポートする専門家を派遣します～

当センターでは、創業者や経営革新を図る中小企業者が抱える経営、技術、IT、マーケティングなどのさまざまな問題を解決するために、当センターに登録している専門家を10回程度派遣して、専門的見地から診断・助言を行いますので、継続して問題解決に取り組むことが可能となります。

今回は、大規模災害時における従業員の安全確保と中核事業の早期再開を目的として事業継続計画(Business Continuity Plan 以下、「BCP」という)の策定に取り組んだ事例を紹介いたします。

****事業継続計画(BCP: Business Continuity Plan)とは****

企業が自然災害や大規模火災などの緊急事態に遭遇した場合に、人的・物的な損害を最小限に留めつつ、中核となる事業の継続又は早期復旧を目的として、平時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法・手段などを取り決めておく計画のことです。

日本澱粉工業株式会社



代表取締役社長 比良 正 氏

<企業概要>

所在地：鹿児島市南栄3丁目20番地
 代表者：代表取締役社長 比良 正
 TEL：099-269-1011
 創業：昭和11年2月11日
 資本金：1億2,500万円
 従業員数：378人
 業種：澱粉・糖類・はるさめ・葛きり・漬物製造業
 URL：<http://www.sunus.co.jp/>

【専門家派遣のテーマ】

売上の維持・拡大、雇用の安定等を目的としたBCPの策定並びに運用体制の構築

【派遣専門家】

(有)蘭田経営リスク研究所
 代表取締役 蘭田 恭久 氏

【派遣期間】

H25年12月～H26年12月(10回)

【派遣経費】 726千円

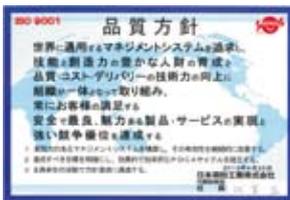
(企業負担1/3：242千円、

センター補助2/3：484千円)

Q. 会社の概要を教えてください

当社は、とうもろこしやさつまいもから澱粉や糖化製品を作っており、お菓子や製パン、ビール、医薬品等の原料として幅広く利用されています。

また、消費者向けに漬物、はるさめ、葛きり等も作っております。今年で創業79年目を迎えますが、日頃より消費者の食品に対する安全性の要求に応えた信頼ある商品づくりに取り組んでおります。



<ISO9001認証取得>



<FSSC22000認証取得>

Q. 専門家派遣事業を利用したきっかけは

BCPは東日本大震災の際に重要性がクローズアップされました。当社としても従業員の安全・安心と企業存続のため、桜島大噴火や大型台風などの大規模災害や緊急事態への備えは非常に重要な企業責任と認識しておりますが、近年、既存及び新規取引先から、当社におけるBCPの策定状況について尋ねられることも増えております。

このため、社内でBCPの策定に取り組むことにし、自社に合ったBCPをどのように作りたいか外部の専門家からアドバイスを受けたいと考えていました。

そのような中、かごしま産業支援センターが主催するBCP策定セミナーに参加したところ、大変有益な話を聞くことができましたので、その際の講師であった蘭田恭久氏を専門家派遣事業で派遣していただき、当社が継続的に発展していくためのBCP策定を支援していただくことになりました。

Q. どのような目標を設定しましたか

今回の活動テーマを『売上の維持・拡大、雇用の安定等を目的としたBCPの策定並びに運用体制の構築』と設定し、11名のコアメンバーを中心とした全社横断的なプロジェクトチームを結成して、経済的に実現可能で高い効果を発揮するBCPを策定すると共に、組織と従業員への定着を図ることを目標としました。



<BCP策定に係る社内体制>

Q. 専門家からの支援内容を教えてください

今回策定したBCPは、本社工場と隣接する第二工場を対象にしましたが、多くの部門が共通認識を持って取り組むため、BCP策定支援のほか、キックオフ大会や基礎セミナー、模擬演習の実施についても支援をいただきました。

Q. 具体的にどのような成果がありましたか

多少のスケジュール変更はありましたが、計画した専門家派遣10回の中で、BCPの策定を完了しました。

活動テーマに掲げた①売上の維持拡大、②従業員の雇用維持・安全確保、③取引先への安定供給等については、今後の運用・改訂を通して実効性を高めることで成果が現れてくると考えていますが、具体的な成果として次の2点が挙げられます。

1. BCPの必要性に対する全社的な意識統一

キックオフ大会や基礎セミナーの開催を通じて、経営幹部及び中堅社員がBCP策定の目的や意義を理解し、事業継続に向けた全社挙げての取り組みであるという意識統一が図られました。

2. 当社独自のBCPの策定

蘭田専門家から提供された標準的なBCP様式及び手順書をベースとして、当社特有の取り組みについても次の各項目に盛り込んでおり、実効性の高い内容となっています。

【BCPの主な内容】

- ①基本方針の立案
- ②中核事業・業務分類の検討
- ③想定災害・被害状況の検討
- ④事前対策の検討・実施
- ⑤緊急時の体制整備など
- ⑥社内教育活動の検討・実施
- ⑦BCPの見直し等

Q. 制度を活用した感想をお聞かせください

蘭田専門家からは、当社の特徴や事業環境を踏まえた上で重要なポイントを示していただけたので、当社に見合った精度の高い成果物を得ることができたと思います。

また、BCPの策定は初めての取り組みでしたが、専門家派遣事業を活用したことで、取引先に対しても急務となっていたBCPをスムーズに策定でき、主要取引先にも今回の取り組みを高く評価していただきましたので、大変嬉しく思っています。

Q. 今後の取り組みについてお聞かせください

今回のBCP策定により経営資源へのリスク対策を抽出しました。具体的には、工場建屋の耐震強度測定と補強、緊急時の通信手段の確保、鹿児島特有の桜島大噴火などに備えた防災・減災対策や訓練の実施などが挙げられます。

今後は、優先順位を設定した上で、大規模災害等にも対応できるように全社挙げて取り組んでいきたいと考えております。

【専門家から一言】

比良社長のリーダーシップのもとに、BCP策定プロジェクトの編成を行い、緻密なスケジュールに従って計画的に策定を進められました。

特に、プロジェクトメンバーの事業継続に向けた士気は一貫して高く、随所に当社独自の新たな切り口が盛り込まれるなど、どの策定工程においても、サンプルとした策定事例をはるかに超える精度の高い内容となりました。

今後は、教育・訓練の継続的な実施と経営管理と連動したBCM（事業継続管理）の体制づくりに取り組まれることを期待します。

（有）蘭田経営リスク研究所 蘭田 恭久 氏



■ 専門家派遣のご案内

かごしま産業支援センター独自で行う専門家派遣事業

【対象要件】

- ・創業者又は経営革新に取り組むなど経営の向上を目指す意欲のある中小企業者
- ・創業又は経営革新等、経営の向上についての目標が明確であること
- ・専門家の派遣により、支援の効果が期待できること

【費用の負担】

- ・専門家派遣に必要な経費（謝金・旅費）の2/3の額を当センターで負担いたします。

【派遣企業の決定等】

- ・上記要件に照らして審査の上、派遣適否を決定します。

国の制度による専門家派遣（ミラサポ）

- ・当センターで窓口相談を受けた後、必要と判断された場合は、最適な専門家を無料で派遣します。（無料の専門家派遣は、1企業あたり年間3回まで利用できます。）

問い合わせ先

（公財）かごしま産業支援センター 相談経営課

TEL：099-219-1273 FAX：099-219-1279 E-mail：keiei@kric.or.jp

特集 がんばる進出企業

現在、鹿児島県では、「力みなぎる・かごしま」づくりを推進するため、「産業おこしへの挑戦」を掲げ、企業誘致に積極的に取り組んでおります。今号では、鹿児島県へ進出し、平成24年度以降に操業を開始した企業の中から4社をご紹介します。

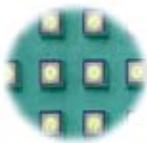
昭光エレクトロニクス株式会社 ～光を磨き社会に貢献～

当社は、昭和電工グループの中核商社である昭光通商株式会社の100%出資により平成26年1月に設立され、パナソニック鹿児島工場のLED素子製造設備の譲渡を受け、同年4月に操業を開始した新しい会社です。

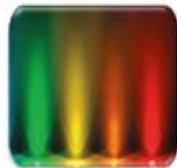
主要生産品であるLED素子については、パナソニック鹿児島工場で培われ、当社に引き継がれた技術を基に、また、設計～開発～製造までを自社で完結できる強みを生かし、お客様のニーズに的確に対応しています。

今後は、昭和電工が持つLED技術とタイアップし、両社の技術を融合して、大規模LEDチップ外販メーカーとしての地位を確立するとともに、グループの組織力を活かした販売にも力を入れ、鹿児島から世界へLED部材を供給できる流れを作っていきます。

主要製品



LED チップ



LED チップ 発光色

電極形成工程



・研削工程・電極形成工程
・暗室工程・エッチング工程

検査工程



・オートプローブ工程
・ハンドプローブ工程

昭光エレクトロニクス株式会社

所在地：日置市伊集院町徳重1786-6

電話番号：099-273-1111

業務内容：可視LED、赤外光LED素子の製造販売

代表者：代表取締役社長 山本 恵一

設立：平成26年1月

従業員数：63人

資本金：9,000万円

大和工機株式会社 霧島国分工場

～先進的なシステムと確かな技術で豊かな未来を創造する～

当社は、昭和57年に都城市において、住友ゴム工業株式会社宮崎工場の自動車タイヤ製造機械の製作及び修理全般を行う会社として創業した後、産業用機械の設計、部品製作、組立を一貫して行っているほか、身体障害者などの福祉ニーズに対応するため、福祉用具の開発、身体障害者・高齢者向けの機械器具装置の製作など福祉分野にも事業を拡大してきました。

鹿児島への進出は、霧島市に立地する企業からの産業用機械の製作・修理・メンテナンス等の需要が増加してきている状況に対応するため同市内に新たに工場を整備しました。

今後も、最新の設備と長年培った技術を活かしながら、地域に必要とされるオンリーワンの機械製作メーカーを目指していきます。



大和工機株式会社 霧島国分工場



工場内観

大和工機株式会社 霧島国分工場

所在地：霧島市国分府中町1457

電話番号：0995-73-5026

業務内容：精密機械加工、自動省力化機械のメンテナンス、各種業務機械の設計・製作

本社：宮崎県都城市高城町穂満坊1002-2

代表者：代表取締役会長 平 勝雄

代表取締役社長 永田 貴志

設立：昭和57年8月

従業員数：15人

資本金：1,000万円 ISO9001認証

株式会社 寺田製作所 鹿児島工場

～100年間積み重ねたものづくりの技を様々な分野へ～

当社は、明治44年に創業し、昭和20年に法人設立した製茶機械メーカーです。創業以来、100年余り製茶機械の開発に関わり、常にユーザー本意の営業・開発・製造・アフターサービスをモットーとしています。

また、ユーザーに有効な設備投資・製茶方法をアドバイスするなどのコンサルタントも行う、茶業パートナー企業です。製茶機械で培ったテラダの技術は、他の食品加工プラントや一般産業機械など多くの分野で活かされています。

鹿児島には、鹿児島県産のお茶の生産量の伸びが堅調であることや、九州地域における当社機械の出荷の割合が高まってきていること等を考慮し、交通の要所である始良市への進出を決定しました。

今後も、長年培った技術と経験を活かし、お客様の満足度を高め、茶業界の発展に貢献できるよう、努力を続けていきます。



株式会社寺田製作所 鹿児島工場



食品の洗浄ライン

株式会社 寺田製作所 鹿児島工場

所在地：始良市加治木町小山田1002-1

電話番号：0995-73-4394

業務内容：製茶機械装置の開発、設計、製作

本社：静岡県島田市牛尾869番地の1

代表者：代表取締役社長 寺田 均

設立：昭和20年3月

従業員数：7人

資本金：8,100万円

株式会社 スタジオ イー・スペース

～全員現場のスピード感でお応えします～

当社は、平成10年に創業し、webサイトの企画・構築などにおいて、デザインとITをワンストップでディレクションできることが評価され、これまで多くの企業や広告代理店の仕事を手がけてきました。

また、メディアの枠にとらわれず、紙媒体のデザイン、映像、編集、執筆、情報発信基地としての店舗プロデュースなども行ってきました。

良好な自然・生活環境に恵まれた、ここ鹿児島には、開発チームを地元採用で立ち上げ、当社本社との相互バックアップ機能を実現することを目的に進出しました。また、同じ県内の与論島では、海が間近に見える場所にシェアオフィスを置いています。

今後も、創業以来変わらぬ「三方良しの精神」を大切に、皆様のお役に立てるよう活動していきます。



株式会社 スタジオ イー・スペース鹿児島オフィス



企画打合せ

株式会社 スタジオ イー・スペース 鹿児島オフィス

所在地：鹿児島市名山町9-15

ソフトプラザ鹿児島505号室

問合せ：kgs@studiospace.co.jp (担当：木村)

業務内容：webサイト企画・受託開発・更新業務など

本社：東京都港区海岸1-2-20

汐留ビルディング3F

代表者：代表取締役 村上 竜雄

設立：平成11年11月

従業員数：13人(アルバイト含む)

資本金：1,000万円

がんばっています

加治木産業株式会社

■会社概要

加治木産業株式会社は、昭和48年に京セラ株式会社の協力会社として設立し、電子部品の製造からスタートしました。現在は、電子部品製造事業部（本社工場、鹿児島工場）のほか、精機事業部（始良工場）、光発電事業部（霧島市）、宝飾品・応用品商品事業部（京セラホテル内）と幅広く事業展開しており、めまぐるしく変化する技術革新の時代において、お客様のご要望に応えられるよう、日々邁進しております。



加治木産業株式会社 精機事業部（始良工場）

■精機事業部の概要

当社の精機事業部（始良工場）では、15名の従業員で機械装置・治具の設計製作、精密機械部品加工、制御設計、制御盤製作、一般溶接、ステンレス加工溶接などを行っています。

金属加工部門においては、金属全般（ステンレス、鉄、アルミ、真鍮など）の加工を単品から、少量多品種、単品短納期から量産まで、液晶・半導体装置、食品関連各種産業機械の精密部品加工を長年培った技術で幅広く対応しています。

開発部門では、一般産業機械、自動機械、省力化機械、農業関連機械、食品関連機械設備の開発、設計（機械設計・電気設計）から製作、組立、メンテナンスまで一貫した製造体制をお客さまのニーズに合わせて構築しています。

また、これまで培った技術や市場ニーズに対応して自社オリジナルの食品機器を製作し、昨年10月にベトナムの展示会に出展しました。

今後は、かごしま産業支援センターの平成26年度中小製造業者創業・新分野進出等支援事業助成金を活用し、4月にベトナムの展示会、5月に上海のペーカリー機器の展示会に出店を予定しており、ASEAN 地域を視野に海外展開を目指しています。

加治木産業株式会社

代表者：代表取締役 真辺 ひとみ
 本社：始良市加治木町西別府2427
 工場・営業所：本社工場、鹿児島工場、始良工場、霧島営業所、クレサンバールふくむら
 設立：昭和48年
 資本金：1,000万円
 従業員数：350名
 事業内容：電子部品製造、治工具、機械部品加工、生産設備設計・加工、太陽光発電、ソーラーシステム、クレサンバール販売
 TEL：0995-62-3456 FAX：0995-62-3882
 URL：http://kajiki-sangyo.jp

■当社の経営理念

“全従業員が物心両面において豊かであること”が当社の経営理念です。13名のプロジェクトで加治木産業の経営理念を作成し、全員で共有しようと、2001年1月1日にこの理念を発表しました。

同じ企業、同じ職場で働く仲間として、ひとり一人が、感謝の気持ちを持ち合いながら、心豊かであって欲しいと願うものです。その実現のためには、企業を発展させ続けることが大切だと考えています。



自社開発の食品機器



工場内観

■今後の展望・抱負

今後は、精機事業部では現在取り組んでいる自社ブランドの商品開発に注力していきたいと思いません。

また、関連会社では、総合仕出しや介護福祉事業も行っていますが、さらに農業分野にも進出し、6次産業化を目指したいと考えています。自分達で育てた野菜を自社で開発した機械で加工し、グローバルに販売するという理想を持っています。

今後も地場産業として果たす役割を再認識し、地域社会の発展に寄与できますよう努力を重ねてまいります。

わが社の輝く女性！

今号は、南九州市川辺町で、鹿児島県産の材料にこだわり、化学調味料を使用せず、伝統食文化の趣を使い、新感覚調味料を展開するくるくま草代表の高倉圭子さんです。



くるくま草

所在地：南九州市川辺町野崎590
 設立：平成21年11月
 TEL：090-5471-1518
 FAX：0993-56-4053
 Mail：info@kurukumasou.com
 URL：http://www.kurukumasou.com/

高倉 圭子 代表

鹿児島県南九州市出身
 昭和40年生
 鹿児島大学水産学部卒業

◇工房紹介

てづくり食工房くるくま草は、南九州市川辺町の山奥に工房があります。屋号の「くるくま草」は、川辺で生産されている「クルクマ」と言う花から名付けました。「安心安全な素材」と「私自身が美味しいと思うもの」この二つを心がけた加工食品作りに努めています。主に麴を作り、それに関連した商品、「粉末塩麴」「味噌」「塩麴」などを作っています。また、笠沙の無農薬にんにくと純正ごま油を使った「激辛ラー油」は、起業当初から手掛け、好評をいただいております。



こうじ塩れもん

激辛ラー油

◇起業のきっかけは

一度よそに出て、田舎に帰ってきた私は、手作りの母の味噌や、普通に売られている卵や豆腐が、とても美味しいことに驚きました。都会では、特別なものが、ここでは、「当たり前」として、ごく普通に扱われている。私は、こんな生活を少しでも紹介できるような仕事がしてみたいと思うようになりました。余計なものを加えずに、素材の味を大切に食生活です。まず、最初に手掛けたのが、味噌作りです。もともと、食品加工の勉強をしたこともあったので、食には興味がありましたが、麴作りも食品加工も全くの手さぐりからのスタートでした。それでも、安心した材料で作る味噌は、やはり美味しく、麴作りも楽しく、私は段々とこの仕事に夢中になっていきました。

◇くるくま草の主な商品

主力商品は「粉末塩麴」です。この「粉末塩麴」はかごしま産業支援センターの「地域資源活用・農工商等連携新事業創出支援事業」の助成金を活用して開発と、販路開拓を行った商品です。字のごとく、

麴を粉末にして、塩と合わせています。鹿児島(笠沙)産のお米と、塩は「こしき海洋深層水塩」を使っています。粉末にした米麴の中に含まれるグルタミン酸等の旨味成分が料理に優しい味付けをしてくれます。また、肉や魚に「粉末塩麴」をふりかけ時間を置きますと、素材そのものの旨味を引出し、とても柔らかく仕上がります。

「粉末塩麴」には、プレーンタイプのほか、にんにく粗挽き黒胡椒入、赤土しょうが入、バジル&パセリ入、桜島小みかん入の「スパイスこうじ塩」もあり、様々な使い方ができます。最近のお奨めレシピは、フライドポテトです。新じゃがを素揚げにして、「粉末塩麴 にんにく黒胡椒」をふりかけます。化学調味料が全く入っていませんので、お子様にも安心して食べてもらえるおやつとしても紹介しています。

最近では、県外のバイヤーの方や、飲食経営の方から、お問い合わせをいただく機会も出て参りました。粉末塩麴は類似商品がなく、化学調味料を使用していないこともあって、興味をいただいているようです。今年は、関東の販路と、業務用の展開を目標に活動していこうと思っています。



粉末塩麴

◇仕事上での印象深い体験談など

これは、とても不思議な話なのですが、この仕事を始めてから、ずっと、その時その時に必要な人が、私の前にすっと現れて助けてくれます。不思議なほど、そのタイミングがあるので、私も驚いています。そのたびに私は、失敗をし、勉強をし、そして、半歩、一歩と前進しています。私はたくさんの方と出会い、その方たちに助けられて今の私がいまいます。

この仕事を始めなければ、おそらく、こんなにたくさんの人との出会い、つながり、優しさを体験することはなかっただろうと思っています。

ベンチャープラザコーナー

第62回ベンチャープラザ鹿児島「二水会」

平成26年11月12日（水）鹿児島市において開催し、県内の3社と県外の1社にビジネスプランを発表していただきました。（発表企業累計204社、うち県内企業149社）

県内企業の発表は、ジャパンポーレックス㈱、㈱ヤマチョウ、㈱現場サポートの3社からそれぞれ発表していただきました。100名を超える参加者は、発表に興味深く耳を傾けるとともに、質疑応答も活発で盛況な会となりました。

※ベンチャープラザ二月会（福岡県 平成26年8月4日）では、九州ニュービジネス大賞受賞企業として、交和電気産業㈱、㈱アーダンの2社が発表されました。

○発表その1 ヒト手間で、上質なひとときを

（ジャパンポーレックス株式会社）

ジャパンポーレックス株式会社

代表取締役 上岡 佳世子
霧島市横川町上ノ1800
TEL：0995-72-0307
FAX：0995-72-1434
URL：http://www.poriex.co.jp/



発表する
上岡代表取締役

《商品の特徴》

セラミック製ミルやセラミック製おろしの類似品が市場に多く出ている中で、最初に市場に導入した企業らしくありたく、良いものを丁寧に作るように心がけております。セラミック製おろしの刃は三角錐形で鋭利になっており、通常のセラミック成形では不可能な形です。しょうゆ差しの成形も同様で、更にシリコンを高精度に密着させる独自の技術で液ダレがしない使いやすくユニークな製品となっております。そしてミル製品は、挽く食材、岩塩や胡椒、ごま、茶葉等、それぞれの食材をいかに効率よく挽く刃に改良できるか、研究開発を日々進めております。

発表内容（販路拡大・業務提携）

《企業紹介》

昭和53年に設立。「世の中に存在しないものをつくり出す」をコンセプトにもものづくりを行っております。主な技術として

①特殊なセラミック成形技術、②シリコンを高精度に密着させる技術を持っております。

それらの技術を駆使して、ミル（手挽きグラインダー）用セラミック製刃やセラミック製おろし・しょうゆ差し等、家庭用品を生産しております。



液だれしない「しょうゆ差し」

《商品開発への思い》

「日本製、Made in Japan」が国内外で高く評価されているなかで、鹿児島県で生産され製品を海外に輸出されている県内企業の皆さまと一緒に、同じロゴ体やマークで「Made in Kagoshima」とパッケージに表示すると、製品に対する付加価値が増すと同時に鹿児島を世界にアピールすることができると考えております。



ポーレックスセラミック サラダとジュースのおろし

発表後の成果・感想

このような機会だからこそお会いすることのできた多岐に亘る分野のトップの方々から貴重なご意見を聞かせていただき、ありがたく思いました。製品のお引き合いもいただいております。すぐに結果の出ることばかりではございませんが、いただいた貴重なご意見は長期計画のなかで活かしていきたいと考えております。

今後の展望

ポーレックスブランドとして自社製品をしっかりと育成してまいります。可能な限り鹿児島県内で原材料を調達をして、鹿児島県霧島市の自社工場で生産している製品であることを一つの特長として訴求してまいります。

○発表その2 魚のプロ 漁師が食べても美味しい魚の生ハム

(有限会社ヤマチョウ)

有限会社ヤマチョウ

代表取締役社長 長井 修
 南さつま市笠沙町赤生木346-31
 TEL : 0993-63-1300
 FAX : 0993-63-1834
 URL : <http://yamachokasasa.jp>



発表する
長井専務取締役

《商品の特徴》

「漁師の生ハム」の原料となるぶり・かんぱちは、自社養殖です。秋太郎（バショウカジキ）は、旬の時期に南さつまの市場に水揚げされ脂がのった最上級の秋太郎を使用。

また、調味料である塩麴は、鹿児島県産のこしき海洋深層水塩と地元笠沙町のお米を使ってつくられております。燻製の際に使うチップも南さつま産のお茶農家のお茶の葉を使用しています。

発表内容（販路拡大・業務提携）

《企業紹介》

平成6年設立。弊社の位置する南さつま市笠沙町は、鹿児島の焼酎造りの技術集団が生まれた故郷でもあります。そんな焼酎の里、笠沙町で地元の焼酎蔵のプレミアム焼酎「一どん」の焼酎粕を餌に配合し、かんぱち・ぶりの養殖を行っております。

また、養殖事業の他にも自社養殖した魚を始め、地元の片浦漁港で水揚げされる天然魚等の加工品を自社の直売所にて販売しています。



《商品開発のきっかけ》

水産物をもっと身近に消費でき、今までとは異なる食べ方を提案できる加工品を開発し、ぶり・かんぱちの消費から縁遠かった消費者にPRすることで消費の拡大を図れる商品が必要でした。

また、今まで水産物の消費量が少なかった若年層への消費拡大の必要性から今までにない新たな商品開発の必要性を感じた為、生食より長い間味わうことが出来る商品として「漁師の生ハム」を開発しました。



「漁師の生ハム」

発表後の成果・感想

二水会にて沢山の方々の前でのプレゼンテーションという貴重な経験をさせていただきました。

発表後の質疑応答で販路開拓のアドバイスや貴重なご意見を頂戴し、今後の新規販路開拓での参考となりました。懇親会においても参加しなければ、出会うことのなかった方々との交流もできました。

プレゼンテーションに不慣れで、最初は緊張しましたが、良い勉強の機会となりました。心より御礼申し上げます。

今後の展望

国内での販路開拓と同時に海外での販路開拓も視野に入れて活動して行きたいと思っております。商談会・展示会等、積極的に参加したいと考えております。

また、今回の商品開発をきっかけに新たな水産加工品の商品開発に取り組んで参りたいと思っております。

○発表その3 現実直視の経営判断を支援

(株式会社現場サポート)

株式会社現場サポート

代表取締役 福留 進一
 鹿児島市西田2-28-6
 TEL : 099-251-9971
 FAX : 099-259-3874
 URL : http://www.genbasupport.com



発表する
福留代表取締役

また、主な県内金融機関へ提出する帳票作成も簡単に行えます。

発表後の成果・感想

特定の業種に関わらず資金管理のニーズがあること、又、それが上手く機能していないこと等の気付きがあり、現在は建設業向けのシステムとして稼働しておりますが、今後、システムを他分野に適合できるかの検討など、ビジネスのヒントになりました。

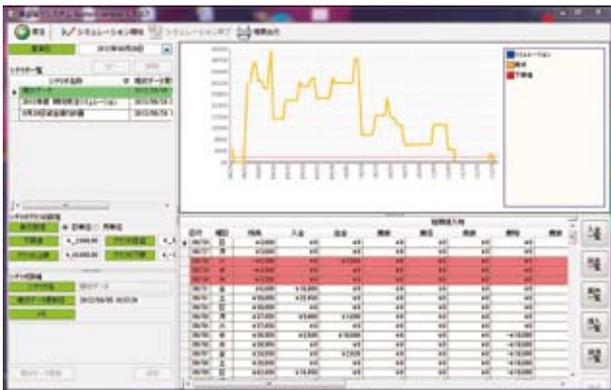
発表内容 (販路拡大・業務提携)

《企業紹介》

建設業向けパッケージソフトウェアやクラウドサービスの企画・開発・販売・サポート、及び付随するコンサルティング・業務受託を行っている会社で、『建設業のお客様のコミュニケーション促進とマネジメント強化に貢献し、競争力強化にお役立ちする』を経営方針としております。

《商品開発のきっかけ》

県内の優良工務店が企画して暗礁に乗り上げていたキャッシュフロー重視の資金管理システムに将来性を感じ、弊社がシステム改修に名乗りを上げたのがきっかけです。ただ、システムは想像以上に難しく、2年以上の開発期間がかかりました。



《商品の特徴》

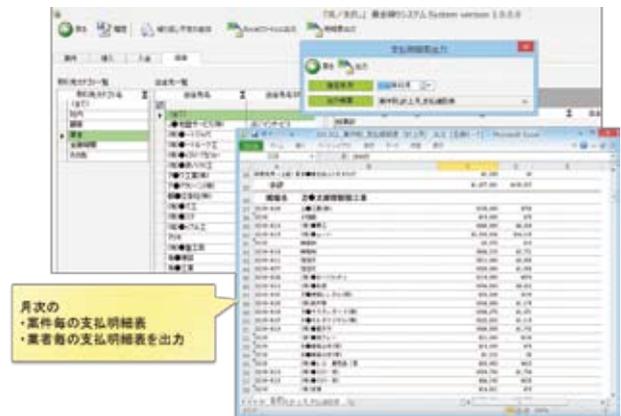
地場工務店の資金管理を“見える化”することにより、経営の意思決定の迅速化と、現実直視の経営感覚の醸成に役立つものです。

具体的には、日々の入出金を記録することによる資金状況の確認や、入出金のシミュレーションによる未来の予測が可能で、安定的な資金管理計画がたてられます。

今後の展望

現在では、今回発表したシステムに関する販売体制まで手が回っていない状況ですので、今後は、商品の販売増に協力していただける良い販売パートナー探しを、継続的に実施していく予定です。

また、他にも建設業をメインに事業をサポートできるシステム開発にも励んでまいりたいと思えます。



◆◆◆ 二水会 ◆◆◆

平成27年度も、ベンチャープラザ鹿児島「二水会」の開催により県内中小企業へビジネスプラン発表の場を提供し、販路拡大、資金調達等の取組みを支援します。

【次回の開催予定】

平成27年5月19日(火) 15:00から
 (場所は鹿児島市内)

※二水会での発表を希望される企業の方は
 お気軽にご相談ください。

◆◆◆ 取引振興コーナー ◆◆◆

『平成26年度 九州7県合同広域商談会』開催

新規取引先の開拓・情報収集を目的として「九州7県合同広域商談会」を広島市で開催しました。今回は、中国・四国・関西・近畿地区の発注企業56社と九州各県から136社の受注企業が一堂に集まり、1面談、20分間の個別面談方式による商談が行われました。本県からは、17社の受注企業が参加し、積極的に技術PRなど行いました。これを機に新規取引先の拡大が期待されます。



商談会 会場風景

開催日	平成26年11月28日（金）
場所	グランヴィア広島（広島市）
主催者	（公財）全国中小企業取引振興協会 九州7県支援機関
発注企業	56社（60小間設置）
受注企業	136社（うち鹿児島県企業17社）
実績	商談数461面談 後日、フォロー調査を実施予定

発注情報

当センターでは、仕事を発注・受注したい企業の希望条件（設備・技術力等）に見合った取引の紹介あっせんを行っております。あっせんのご希望がありましたらご連絡ください。

*九州合同発注開拓調査（2回目）で発注申し込みがあった一部を掲載しました。

なお、お手元に届くまでにあっせん済みになっている場合もありますので、その際はご了承をお願いします。

	所在地	発注品目	数量	加工内容	発注条件	
					必要設備	材 料
1	鹿児島県	ニットウェア （縫製加工）	5,000枚	裁断～縫製～仕上	同左加工設備 一式	ニット
2	鹿児島県	産業機械部品 （板金加工）	協 議	曲げ加工 レーザー加工	シャーリング、プレス機 レーザー加工機 他	SUS304
3	鹿児島県	省力化装置部品	協 議	精密機械加工 旋盤加工 板金加工	マシニングセンター NC旋盤 レーザー加工機 他	SUS AL SS
4	福岡県	自動機部品	協 議	精密機械加工 精密板金加工 精密金型加工	マシニングセンター 治具フライス、成形研削盤 ワイヤーカット 他	SUS AL SKD
5	熊本県	精密プレス部品 精密金型部品	協 議	プレス加工 機械加工	マシニングセンター NCフライス、研削盤 治具グラインダー 他	SKD 超硬
6	東京都	環境関連設備	協 議	機械加工 製缶加工 （タンク、コンベア）	機械加工、製缶加工設備	SS SUS
7	神奈川県	真空装置部品 保守部品	協 議	機械加工 製缶（架台）加工 板金加工	機械加工、板金加工設備	SUS AL 他

【お問い合わせ先】（公財）かごしま産業支援センター 取引振興課 TEL：099-219-1274

Information

平成27年度

※助成額・内容の変更があります

研究開発助成金及び産業おこし挑戦助成金の募集概要(予定)

○募集期間：4月上旬～5月上旬

詳細は、かごしま産業支援センターのホームページ (<http://www.kric.or.jp>) に3月末掲載予定です。

【研究開発助成金】

事業名	事業内容	募集対象	事業期間	助成率	助成額	26年度の実績(千円)
① 新事業研究開発助成事業	研究開発型企業等が行う、新技術・新製品等の開発・試作に要する経費の一部を助成	県内中小企業	単年度	対象経費の2/3以内	300万円以内	4件 1件当たり助成額877～1,859
② 地域技術提携起業化事業	地域の4社以上の中小企業者等のグループが行う、新技術または新製品の起業化に要する経費の一部を助成	県内中小企業	単年度	対象経費の8/10以内	300万円以内	採択なし
③ 重点業種研究開発支援事業	自動車、電子、新成長分野関連産業(環境・エネルギー産業、健康・医療産業、バイオ関連産業)に関する新技術、新製品の開発に要する経費の一部を助成	県内中小企業	2年度以内	対象経費の2/3以内	400万円以内/年	3件 1件当たり助成額2,577～4,000
④ 新分野参入研究開発助成事業	企業の撤退及び規模縮小等により、経営に影響を受けた県内中小企業が、現在の事業形態とは異なる新たな分野への参入等を図るための新製品・新技術の開発研究に要する経費の一部を助成	県内中小企業	2年度以内	対象経費の2/3以内	380万円以内/年	1件 助成額3,415
⑤ 産学官事業化研究会支援事業	大学等の研究シーズをもとに、その事業化を目指す産学官の連携による研究会に要する経費の一部を助成	県内中小企業と、大学や公設研究機関等	単年度	対象経費の2/3以内	10万円以内	2件 1件当たり助成額80～100

【産業おこし挑戦助成金】

⑥ 中核的企業創出プログラム事業	自動車、電子、食品、成長産業関連の技術シーズ等を有するか、若しくはその市場に新たに参入する意思を持つ中小企業者等に対して、中核的企業としての創出に必要な各種事業の実施に要する経費を助成。	県内中小企業	3年度以内	対象経費の2/3以内	1,200万円以内	6件 1件当たり助成額2,729～7,286
⑦ 地域資源活用起業家支援事業	地域資源を活用し、起業を目指す個人等に対して、起業に向けた事業展開及び研究開発、試作品開発、販路開拓等の経費を助成。	起業を目指す個人等	2年度以内	対象経費の2/3以内	300万円以内/年	2件 1件当たり助成額2,706～3,000
⑧ 地域資源活用・農工商等連携新事業創出支援事業	地域資源を活用して事業化を行おうとする中小企業者等、若しくは、鹿児島県内における農工商等連携の促進に資する取組に対して経費を助成。	県内中小企業者、若しくは、中小企業者と農林漁業者との連携体	2年度以内	対象経費の2/3以内	300万円以内/年	6件 1件当たり助成額1,582～3,000
⑨ 新事業参入調査支援事業	新分野、新市場への参入、研究開発実施に係る事前調査及び製品企画に要する経費を助成。	県内中小企業	単年度	対象経費の2/3以内	50万円以内	3件 1件当たり助成額432～500
⑩ 新市場開拓事業	製品の市場開拓を図るため実施する展示会への出展及び展示会での市場調査(アンケート)に要する経費を助成。	県内中小企業	単年度	対象経費の2/3以内	50万円以内(海外100万円以内)	28件 1件当たり助成額188～500

【お問い合わせ先】

(公財)かごしま産業支援センター

産学官連携課 〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-40 (鹿児島大学産学官連携推進センター)

相談経営課・新産業育成課 〒892-0821 鹿児島市名山町9-1 URL: <http://www.kric.or.jp>

①～⑤の事業 産学官連携課 TEL:099-214-4770 E-mail:sangaku@kric.or.jp

⑥の事業 相談経営課 TEL:099-219-1273 E-mail:keiei@kric.or.jp

⑦～⑩の事業 新産業育成課 TEL:099-219-1272 E-mail:kusei@kric.or.jp

情報 KISC WINTER 2015

発行者：公益財団法人 かごしま産業支援センター
〒892-0821 鹿児島市名山町9-1 鹿児島県産業会館2F

TEL: 099-219-1270 (代表)

FAX: 099-219-1279

E-mail: kisc@kric.or.jp URL: <http://www.kric.or.jp>